

オーディオ実験室収載

ハイドン盤を聴く(1)(HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(1)—

1. 始めに

LINN LP-12 の再構成(35)およびThorensTD124 の再構成(1)で報告しましたようにこれらのアナログシステムの大幅な変更を行い、バッハ、テレマン、ヘンデル、ヴィヴァルディのアナログ盤を聴き直してきました。今回からは、ハイドン盤を聴いてみることにしました。

2. ハイドンのアナログ盤の試聴方法

試聴システムは、LINN LP-12 の再構成(35)および ThorensTD124 の再構成(1)で報告したとおりであり、ハイドンのアナログ盤をレーベル毎、録音年代毎に整理して、LINN LP-12 と ThorensTD124 のいずれか、または両方で聴いていきます。その後、さらにアンチスタティックの効果(1)とアンチスタティックの効果(2)で報告したようにレコードアンチスタティックも加わり、今回も、スピーカーアキュライザーの出力側のマイナス端子に Crstal EpY-G をセットしています。また、今回も Magic Mat II の導入(2)で報告した Magic Mat II を使用しています。

さらに ZANDEN Model 120 の仮想アースが、Crystal E から Crystal E-G に代わっています。

今回は、次のハイドン盤を聴いていきます

CBS SONY 2BAC 1635

フランツ・ヨーゼフ・ハイドン ロンドントリオ第1番ハ長調
ロンドントリオ第2番ト長調
ロンドントリオ第3番ト長調
ディヴェルティメント第2番ト長調
ディヴェルティメント第6番ニ長調
ロンドントリオ第4番ト長調

ジャン・ピエール・ランパル (フルート)
アイザック・スター (ヴァイオリン)
ムスティスラフ・ロストロポヴィチ (チェロ)

CBS SONY 2BAC 1672

フランツ・ヨーゼフ・ハイドン ヴァイオリン協奏曲第1番ハ長調
チャーラン・リン (ヴァイオリン)
ネヴィルマリナー指揮ミネソタ交響楽団

3. ハイドンのアナログ盤の試聴結果

ハイドンのロンドントリオは、CBS SONY は、オリジナル盤の Columbia、R、第 4 時定数 Low と国内盤の Columbia、R、第 4 時定数 High がありますが、前者では余分な響きが載りますので後者で聴いていきます。ランパルのフルートとスターのヴァイオリンが、明るく生き生きと対話し、ロストロポヴィチのチェロが下支えしており、音質はクリアです。

ハイドンのヴァイオリン協奏曲第 1 番は、これも CBS SONY の国内盤ということで、Columbia、R、第 4 時定数 High で聴いていきます。ヴァイオリンの音像が大きいので、R→N としてみましたが、音の焦点がぼやけますので元に戻しました。この曲もハイドンらしく、明るく伸び伸びとヴァイオリンが歌い、バックのオーケストラも明晰です。

4. まとめ

LINN LP-12 の再構成(35)とアンチスタティックの効果(1)とレコードアンティスタティックやスピーカーアキュライザーの Crstal EpY-G と Crstal E-G や Magic Mat II の結果をトレースでき、レベルのイコライザー特性が特定できました。

以上